



観察のポイント

- 子どもは腸が十分に発達していないため、摂取したものが十分に消化吸収できなかったり、腸からの分泌物が増えたりして下痢をしやすいものです。

機嫌が良く、食欲があればまず心配ありません。

下痢をしたときは、いつもの便との違いをよく観察しましょう。

- におい(腐ったような臭い、酸っぱい臭い)はどうか
- 性状(血液や粘液が混じっているか、赤っぽい便、白っぽい便、どろどろの便、水様便)はどうか
- 1日の回数はどうか

- 嘔吐はあるか • 腹痛はあるか • 機嫌はどうか
- 食欲はどうか • 熱はあるか



しばらく様子を見てもよい場合

- いつもより便が軟らかいが、下痢の回数は1日5回以内。
- 食欲がいつもと変わらず、水分がとれている。
- 熱がなく、機嫌もよく元気。

早めに救急外来を受診した方がよい場合

- 色が白っぽい便、頻回の水様便、血液が混じっている便、糊のような黒っぽい便。
- 高熱や頻回の嘔吐がある。
- 腹痛が強い。水様性の下痢が1日6回以上ある。
- 機嫌が悪く水分をほとんど受け付けない。
- おしっこの量が極端に少ない、涙がほとんど出ない。
- 唇や舌が乾いている。
- 顔色不良～顔面蒼白になっている、元気がなく活気がない。

下痢

3ヶ月未満

3ヶ月～6歳

次の症状はみられますか？

- 元気がなく、ぐったりしている。
- 3時間以上おしっこがでない。
- 吐く、もどす、嘔吐がある。
- 38.0℃以上の発熱。
- 唇や口の中が乾燥している。

症状がみられたものを「はい」とした場合

「はい」が1つ以上

なし

小児科医のいる医療機関
を受診してください。

次の症状はみられますか？

- 元気がなく、ぐったりしている。
- おしっこが出ない、色の濃いおしっこをする。
- 活気がない。
- よく眠れずにボーッとしている。
- 水分をとるのを嫌がる。
- 目がくぼんでいる。
- 38.0℃以上の発熱。
- 唇や口の中が乾燥している。

症状がみられたものを「はい」とした場合

「はい」が1つ以上

なし

ただし、症状が大きく変わったら小児科医のいる医療機関および休日
夜間急患センター等を受診してください。

様子を見ながら診療時間になるのを
待って医療機関へ

家庭での対応

- 下痢がひどい時は、胃腸を休めるために固形物を控えましょう。
- 脱水症状になりやすいので水分は十分に与えましょう。
- 食べ物を与える時は、便の状態をみながら少しずつ与えましょう。
- 出来るだけ加熱調理した炭水化物（おかゆ・おじや・うどん等） から与えましょう。
- おしりがかぶれないよう、こまめに洗ってあげましょう。
- 家族内の感染を予防するため、排泄物を始末した手はよく洗っておきましょう。